

# 講演会「雪崩から身を守るために」2024 企画書



雪崩事故防止研究会 ASSH  
AVALANCHE SAFETY SEMINAR IN HOKKAIDO

# 講演会「雪崩から身を守るために」2024 企画書

## 【企画趣旨】

雪崩により死亡した北海道大学の学生は 28 名。雪崩事故防止研究会は北海道大学山スキー部、山岳部、ワンダーフォーゲル部の OB3 名によって 1991 年に設立されました。北海道大学低温科学研究所の研究者、雪山を楽しむスキーヤー、登山家、医師、消防士、看護師らが仲間に加わり、雪と雪崩の科学、気象、低体温症、搜索救助法などの啓発・教育活動を北海道で続けています。2018 年から活動を本州へ広げました。

活動を本州へ広げた理由は、高校生ら 8 名が亡くなった那須雪崩事故（2017 年 3 月 27 日）が起きたからです。この事故調査に会員が関わりました。雪崩教育を受け、雪崩を回避する知識があれば、那須雪崩事故は防げたはず。雪崩の搜索救助法と低体温症の知識があれば、もっと助かる命があったはず。私たちは改めて、雪崩事故防止に教育が不可欠だと認識しました。2018 年 3 月に栃木県で講演会と講習会を開催し、2019 年に東京、2020 年に白馬の講演会を開催するようになりました。2020 年は 1,280 名、2021 年は 1,135 名、2022 年は 960 名、2023 年は 1,160 名が講演会に参加。いずれの会場も雪崩に関する知識を求める人たちの“熱気”と“真剣さ”が溢れました。

今年 3 月、鳥取県の大山大で登山者 2 名が死亡する雪崩事故が起きました。「雪崩は起きない」と思い込む登山者。「まさか雪崩に遭うとは思わなかった」と異口同音に語るスキーヤー。このままでは大山大で雪崩事故が激増すると危機感を抱いています。そのため大山大講演会の開催を企画し、開催の準備を進めています。

雪崩事故防止研究会は、2024 年も講演会、講習会活動を継続、雪崩事故を防ぐためにプログラムの改革を進めます。

【講演会名称】 講演会「雪崩から身を守るために」 2024

## 【目的】

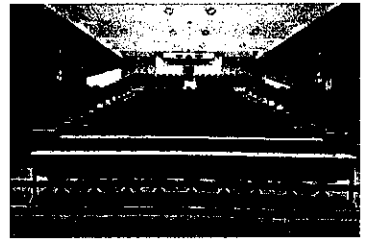
- 雪と雪崩、気象の科学的知識の普及啓発
- 雪崩の危機管理、搜索救助法、低体温症に関する医学知識の普及啓発
- 北海道防災航空隊・栃木県消防防災航空隊によるエアレスキューの普及啓発
- 雪崩事故事例から学ぶ

## 【対象】

- 登山者、スキーヤー、スノーボーダーなど雪山愛好者、学生
- 公的機関の救助隊員、ガイド、スキーパトロール
- 医師、看護師など医療従事者

**【札幌】** 第32回札幌講演会「雪崩から身を守るために」

【日時】 2024年10月26日(土) 10:00~18:00  
【会場】 北海道大学高等教育推進機構大講堂(定員450名)  
北海道札幌市北区北17条西8丁目  
【共催】 北海道大学体育会山スキー部  
公益社団法人日本雪氷学会北海道支部  
雪崩事故防止研究会



**開催未定【大山】** 第1回大山講演会「雪崩から身を守るために」

【日時】 2024年11月9日(土) 10:00~18:20  
【会場】 未定(鳥取県大山町)  
【共催】 未定・雪崩事故防止研究会

**【宇都宮】** 第7回栃木講演会「雪崩から身を守るために」

【日時】 2024年11月30日(土) 10:00~18:00  
【会場】 宇都宮大学峰ヶ丘講堂(定員180名)  
栃木県宇都宮市峰町350  
【共催】 宇都宮大学農学部応用生命科学科生物有機化学研究室  
南東北雪崩研究会・雪崩事故防止研究会



**【東京】** オンライン併用 第6回東京講演会「雪崩から身を守るために」

【日時】 2024年12月1日(日) 10:00~18:00  
【会場】 青山学院大学(予定)本多記念国際会議場  
東京都渋谷区渋谷4丁目4-25  
【共催】 青山学院大学山岳部・雪崩事故防止研究会



**【白馬】** 第5回白馬講演会「雪崩から身を守るために」

【日時】 2024年12月9日(月) 14:00~21:00  
【会場】 白馬村ウイング21(定員500名)  
長野県北安曇郡白馬村北城2066  
【共催】 白馬村・小谷村・一般社団法人白馬村観光局  
一般社団法人小谷村観光連盟・雪崩事故防止研究会



**【講演会申込み・登録・参加】** 無料

**【後援】(予定)**

公益社団法人日本山岳会  
公益社団法人東京都山岳連盟・公益社団法人日本山岳ガイド協会  
株式会社山と溪谷社  
公益社団法人日本雪氷学会雪崩分科会(白馬講演会)

株式会社エフエム栃木（栃木講演会）

一般社団法人 HAKUBA VALLEY TOURISM（白馬講演会）

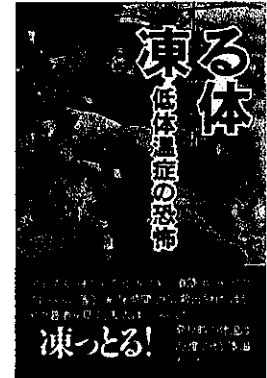
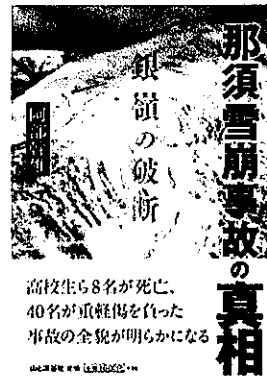
【参考図書】 講演は参考図書に準じた内容です。事前に読むことを推奨します

参考図書①「増補改訂版雪崩教本」（2022、山と溪谷社）

参考図書②「那須雪崩事故の真相 銀嶺の破断」（2019、山と溪谷社）

参考図書③「証言 雪崩遭難」（2023、山と溪谷社）

参考図書④「凍る体」（2002、山と溪谷社）



【2023年の協賛企業】（予定）

- ① 株式会社ミウラ・ドルフィンズ
- ② 株式会社秀岳荘
- ③ 株式会社ゴールドウイン THE NORTH FACE
- ④ パタゴニア・インターナショナル・インク Patagonia
- ⑤ 味の素株式会社 amino VITAL
- ⑥ アメアスポーツジャパン株式会社 ARC' TERYX
- ⑦ 株式会社アスティ arva
- ⑧ イワタニプリムス株式会社
- ⑨ 株式会社エイアンドエフ OR OUTDOOR RESEARCH
- ⑩ 株式会社エヴァーグリーン・アウトドアセンター
- ⑪ 株式会社キャラバン G3
- ⑫ 株式会社K2ジャパン BCA
- ⑬ HEAD Japan
- ⑭ 有限会社玉屋プロダクツ GENTEMSTICK
- ⑮ バイオンクリエイティブ株式会社 FIELD EARTH
- ⑯ 株式会社finetrack
- ⑰ 株式会社フルマークス
- ⑱ 株式会社北海道気象技術センター HowTecc
- ⑲ 株式会社マジックマウンテン ORTOVOX
- ⑳ マムート・スポーツグループジャパン株式会社 MAMMUT
- ㉑ 株式会社モチツキ MSR
- ㉒ ミレー・マウンテン・グループ・ジャパン株主会社 MILLET
- ㉓ 株式会社ロストアロー PIEPS・Black Diamond
- ㉔ 株式会社スプートニク Klättermusen（クレタールムーセン）

**【問い合わせ先】** 雪崩事故防止研究会

【代 表】 阿部幹雄

携帯 090-3118-1929

E-mail : [mabe@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:mabe@seagreen.ocn.ne.jp)

【事務局】 石田淳一

〒064-0921 札幌市中央区南 21 条西 8 丁目 1-37(株)石田商店内

TEL (011) 521-0767 FAX (050) 3737-4757

E-mail : [info@assh1991.net](mailto:info@assh1991.net)

## 2024年講師紹介

○ 尾関俊浩（おせき としひろ） 大山/白馬/担当：「雪と雪崩の科学」



1968年北海道生まれ。北海道教育大学教授。博士（理学）。北大基礎スキー部OB。2010～2014（公社）日本雪氷学会雪崩分科会会長、2017年～同理事、同北海道支部雪氷災害調査チーム研究部門リーダー。第52次南極地域観測隊（夏隊）。雪氷物理学を専門とし、雪崩や着氷雪などの雪氷災害科学の研究を行なう。また、雪や氷を使った理科教材の研究にも取り組んでいる。共著に「山岳雪崩大全」、「増補改訂版雪崩教本」、「証言 雪崩遭難」（以上山と溪谷社）、「積雪観測ガイドブック」（日本雪氷学会）

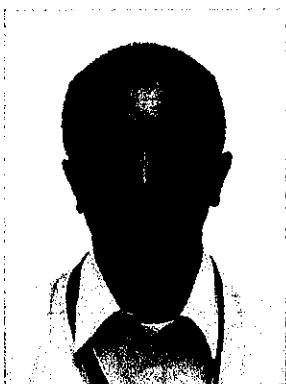
○中村一樹（なかむら かずき） 東京/担当：「雪と雪崩の科学」  
白馬/担当：「降雪と気象」



1968年北海道生まれ。博士（環境科学）、国立研究開発法人防災科学技術研究所雪氷防災研究センター長。公益社団法人日本雪氷学会雪崩分科会幹事長、同学会北海道支部雪氷災害調査チームに所属。気象、雪氷災害の軽減に関わる研究や活動に携わる。気象予報士。著書：「山岳雪崩大全」（2015 共著）、「雪崩教本」（2017 共著）、「増補改訂版雪崩教本」（2022 共著）すべて山と溪谷社、「ゆきゆきだいですき」（2022 データ監修）ほか多数

○ 山口悟（やまぐち さとる）

札幌/担当：「防災科研のニセコでの気象観測と情報提供」  
大山/担当：「降雪と気象～防災科研の大山での気象観測と情報提供～」  
東京/担当：「防災科研の山岳地帯における気象観測と情報提供」  
白馬/担当：「防災科研の白馬での気象観測と情報提供」



1971年茨城県生まれ。国立研究開発法人防災科学技術研究所上席研究員、北海道大学低温科学研究所卒 博士（地球環境科学）、2010年から日本雪氷学会雪崩分科会理事、雪氷災害調査チーム。2002年に防災科学技術研究所に入所以来、積雪の物性や雪崩の発生メカニズムなど雪氷災害に関する幅広い研究に従事。その成果は海外の雑誌に多数掲載されている。また研究内容が評価されて2010年、2023年に日本雪氷学会北信越支部から、また2012年、2024年に日本雪氷学会から、それぞれ学会賞が授与されている。近年は、科学的情報に基づくスキー場の雪崩安全管理に関する研究を地元自治体やスキー場（ニセコ、白馬、谷川岳、大山）と共創しながら実施している。

○勝島隆史（かつしま たかふみ） 札幌/宇都宮/担当：「雪と雪崩の科学」



1981年富山県生まれのテレマークスキーヤー。(国研)森林研究・整備機構森林総合研究所主任研究員、博士(工学)、(公社)日本雪氷学会理事、雪崩分科会幹事。積雪現象および樹木の着雪現象の解明とモデリング、全層雪崩における積雪と樹木の相互作用についての研究を主に進める。日本雪氷学会が主催する「積雪観測&雪結晶撮影講習会」や「雪崩対策の基礎技術研修会」の講師を務めている。また、小学校での雪氷観測による雪崩災害の防災教育を実践するなど、市民と科学者との対話や協同を通じた自然現象の理解とリスクコミュニケーションを模索している。

○原田裕介（はらだ ゆうすけ） 札幌/担当：  
「雪崩事故調査報告～利尻山（1名死亡）・羊蹄山（2名死亡）～」



1973年愛知県生まれ。(国研)土木研究所寒地土木研究所雪氷チーム主任研究員、博士(農学)、気象予報士、技術士(建設部門)。日本雪氷学会雪崩分科会幹事、雪氷災害調査チーム。1994年より信州大学農学部にて故若林隆三教授に師事し、山岳域の雪崩と積雪について研究。1999年より民間企業、2011年より土木研究所にて主に北信越・北海道・東北地方における道路の雪崩・吹雪対策のコンサルティングおよび研究に従事。将来、山岳域で役立つ雪崩予報の提供に少しでも貢献できるよう精進している。

○大西人史（おおにし ひとし）

大山/東京/担当：「雪崩のリスクマネジメント～行動と装備」



1964年北海道生まれ。(地独)北海道立総合研究機構研究員。三段山クラブ代表、雪崩事故防止研究会副代表、雪氷災害調査チーム。雪崩事故調査のほか講習会の講師や講演など、雪崩事故防止に関わる活動を行なっている。共著に「山岳雪崩大全」、「増補改訂版雪崩教本」。

○船木上総（ふなき かずさ）札幌/大山/東京/白馬/担当「雪崩事故の医学」



1956年東京生まれ、東京育ち。北海道大学医学部卒、博士(医学)、苫小牧東病院常務理事、副院長。専門は内科・循環器・リハビリテーション。同院では登山外来を設置、診療に当たっている。北大山スキー部に所属し、OBになった今に至るまで雪山を駆け巡っている。25才の時、モンブランでクレバスに27m転落。16時間氷河に閉じ込められ、体温28度の低体温症になったが、適切な救助と

治療によって生還した。この体験から、雪崩において低体温症が起きる仕組みと現場での対策をテーマに啓発活動を続けている。雪崩事故におけるキーワードは気道確保、迅速かつ丁寧な救出、救出後の体温低下防止を信念としている。

雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、日本登山学会国内認定医。著書に「凍る体」、「山岳雪崩大全」（共著）いずれも山と溪谷社。

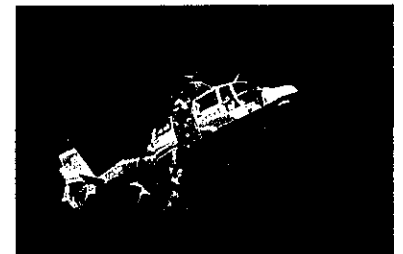
○下田大輔（しもだ だいすけ）

札幌/担当：「北海道防災航空隊による雪崩事故現場におけるエアレスキュー」



1983年函館市生まれ。消防団員だった父の影響を受け、函館市消防本部の消防士になり救助隊、消防隊、指揮隊の経験が積んできた。2022年4月から北海道防災航空隊副隊長、2023年4月から隊長。函館市で勤務していたとき、水難救助活動中に同僚が負傷し、現在も復帰できていない。消防士として心がけるのは無事に生きて還ること、仲間を家族のもとに無事に帰すこと。人間を助けるという意識を強く持ち、迅速さではなく社会復帰できるように優しく救助したい。救助は早くて一人前、優しくて一流を目指している。

○北海道防災航空隊 HOKKAIDO AIR RESCUE TEAM  
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/ktk/bsb/bk/index.htm>



北海道総務部に「防災航空室」が設置されたのは1996年。「はまなす2号」が導入され、全道の地域消防から消防吏員8名が派遣され「北海道防災航空隊」が発足した。運航体制は、夜間宿直と非常招集により一年365日の出動を可能にしている。2019年に「はまなす1号」が導入され2機体制になり、2023年から道警航空隊と共同運航を開始した。年間出動件数は、およそ150件。全国で最も広大な管轄面積のなか、救急、火災出動のほか、山岳救助出動では重傷、重篤な遭難者などの救助に活躍している。

○石原陽一（いしはら よういち）

宇都宮/担当：「栃木のエアレスキューについて～講演と実演～」

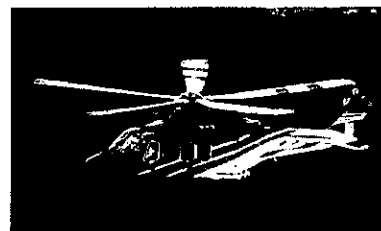


1972年栃木県生まれ、宇都宮市消防局消防吏員。国際緊急援助隊（JDR）救助チーム登録隊員。消防大学で高度・特別高度救助コース、航空隊長コースを修了。緊急消防援助隊関東ブロック合同訓練実行委員会事務局へ派遣を経て宇都宮市消防局高度救助隊長、2022年に栃木県消防防災航空隊長に着任。今年7月からフジテレビ系列全国放送の連続ドラマ「マウンテンドクター」の山岳救助とエアレスキューを監修。このドラマでは山は美しく素晴らしいところだが、危険も多く潜んでいることを訴えている。山を愛する人たち、軽装で安易に登山する人たちに、登山の魅力と恐ろしさは表裏一体であり、命の尊さを広く訴え、山岳事故防止のため撮影に協力した。

○栃木県消防防災航空隊 AIR RESCUE TOCHIGI

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/102/system/honchou/honchou/1279771768697.html>

1996年に栃木県総務部消防防災課航空係が発足し、1997年4月から初代「おおるり」BELL412型運航による消防防災航空隊業務を開始。2017年9月二代目「おおるり」アグスタ式AW139型による運航を開始した。運航体制は県内消防本部（局）から9名の消防吏員が任期3年間で派遣され、勤務は1年365日、日の出から日没まで対応し、栃木県全域を直線距離での飛行により約16分でカバーしている。各種救助のほか救急・火災・情報収集活動や他県への応援活動などを行っている。



○ 佐々木大輔

札幌/担当：「雪崩事故調査報告・ガイドの視点から～

利尻山（1名死亡）・羊蹄山（2名死亡）～」

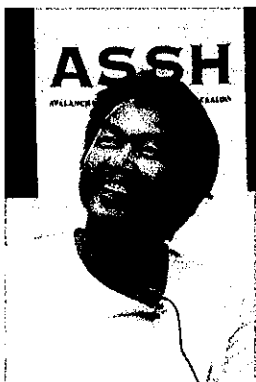
大山/担当：＜仮＞「スキーガイドの行動学」



1977年北海道生まれ。国際山岳ガイド、日本山岳ガイド協会理事、北海道山岳ガイド協会理事長、雪氷災害調査チーム。20歳代からエクストリームスキーヤーとして世界各地の大会を転戦。同時に北海道の仲間たちとデナリ（2000）、北千島（2001）、グリーンランド（2003）、パタゴニア（2007）などにシュプールを刻む。第51次南極観測隊セール・ロンダーネ山地地学調査隊フィールドアシスタント。国際山岳ガイドとしてヨーロッパアルプス、ロフォーテン諸島、グリーンランドなどでのガイドングを行う。2016年デナリのカンリッジを登攀し南西壁を滑降。2023年パキスタン・カラコラムにてスキー遠征。出演番組：「厳冬の利尻・最果ての富士の大滑降」（2013）、「世界初 極北の大冒険デナリ大滑降」（2017）以上NHKほか多数。

○塚原聡（つかはら さとし） 札幌/宇都宮/東京担当：

「山岳ガイドの行動学～雪崩に遭わないために、そして雪崩から仲間を救うために～」



1969年北海道生まれ。山岳ガイド日本山岳ガイド協会所属、北海道山岳ガイド協会副理事長、雪氷災害調査チームガイド部門代表。1998年札幌の山岳ガイド会社ノマドにてガイド活動をスタート。バックカントリー黎明期より北海道の山々を開拓し、年間100日以上を雪山で過ごす。2006年赤井川村に拠点を移し、北海道バックカントリーガイズ代表として、ガイド業務のほかスキーガイド検定員、雪崩や雪山でのリスクに関する啓蒙活動も行なっている。

○阿部夕香（あべ ゆか） 大山/担当：

「雪崩搜索救助 Avalanche Search & Rescue (AvaSAR)」



1974年北海道生まれ。幼少のころからスキー、スケート、水泳、剣道、テニスなど多彩なスポーツに親しむ。社会人になってからトライアスロン、アドベンチャーレース、クロスカントリースキーなど道内で開催されるアマチュアの大会に出場。北海道のトップクラスの選手だった。26歳のときガイドに憧れ会社を辞め、登山、スキー、クライミングに邁進し、ガイドとなった。第56次、64次南極観測夏隊フィールドアシスタント。北大環境科学院南極大学カリキュラム講師。雪氷災害調査チーム、日本山岳ガイド協会（登山ガイドⅢ、スキーガイドⅡ）、北海道山岳ガイド協会理事、札幌山岳ガイドセンター。

○中川伸也（なかがわ しんや） 札幌/担当：司会 宇都宮/東京/白馬担当：

「雪崩搜索救助 Avalanche Search & Rescue (AvaSAR)」



1978年北海道生まれ、「natures.」代表。日本山岳ガイド協会（登山ガイドⅡ、スキーガイドⅡ）、雪氷災害調査チーム。14歳でスノーボードと出会いハーフパイプ競技に没頭し、プロ資格を取得するも競技から離れ、バックカントリーの世界に魅了される。「CAR DANCHI」シリーズなどDVD作品に出演多数。スノーボーダー、スキーヤーが楽しく安全に雪山を滑走して欲しいとガイドの道を歩む。活動拠点は、大雪山国立公園がある東川町。

○小林尚礼（こばやし なおゆき） 宇都宮/担当：「梅里雪山十七人の友を探して」



1969年、千葉県生まれ。京都大学大学院環境工学修了、京大士山岳会理事。京大で山岳部に在籍し、日本各地の山に通った。1991年1月、中国雲南省の梅里雪山(6,740m)で京大士山岳会と中国登山協会による合同隊の17人が、第3キャンプで就寝中に雪崩に襲われ全員が死亡した。仲間を失った小林は1998年、会社を辞めて写真家となり、遺体捜索のために麓の村に通い始めた。25年間に及んだ遺体捜索を通して住民との友情を育み、「聖なる山」を信仰する住民の心を知った。2023年までに収容した遺体は16人。まだひとり遺体を山に残しているが、収容を終えることにしたという。

著書：「梅里雪山十七人の友を探して」（山と溪谷社）

- 阿部幹雄（あべ みきお） 大山/担当：「登山者2名が死亡した大山雪崩事故」  
札幌/宇都宮/東京/担当：「那須雪崩事故の真相～3 教諭に実刑判決」



1953年愛媛県生まれ。写真家、ビデオジャーナリスト。雪崩事故防止研究会代表、雪氷災害調査チーム前代表、北大山スキー部OB。中国高峰の遭難で生き残り、長く8名の遺体の搜索収容活動を行ってきた。第49、50、51次南極観測隊セール・ロンダーネ山地地学調査隊フィールドアシスタント。南極野外食（フリーズドライ製法）を開発。南極野外食は宇宙食となり、7人の日本人宇宙飛行士に供給された。2023年「宇宙日本食」として5品目のJAXA認証を取得。著書「那須雪崩事故の真相～銀嶺の破断」、「証言 雪崩遭難」、「生と死のミニャ・コンガ」（山と溪谷社）ほか多数。

- 高瀬晶子 札幌/東京/担当：「16歳の<sup>あつき</sup>淳生を雪崩で失って」



1966年栃木県生まれ。高校教員だった高瀬昌二さんと結婚、二児の母となる。ソフトボール部顧問だった昌二さんは生徒の指導に情熱を注いでいたが、次男<sup>あつき</sup>淳生さんが11歳の誕生日を迎えた日に癌で亡くなった。3年間の闘病の末に父（46歳）が亡くなり、淳生さんは本来の姿を失っていった。14歳の時、淳生さんが計画し、四国の遍路道をいっしょに歩いた。そのころから元気を取り戻し始め、大田原高校に入学すると山岳部に入部。「すごく楽しい」と重いザックを背負い、自主トレをするようになった。だが、那須雪崩事故で亡くなった。「どうして淳生は死ななければならなかったのか。真実を知りたい」と願いつづけている。

- 植木 孝（うえき たかし） 宇都宮/担当：「新たな栃木県の高校安全登山の取り組み」



1964年栃木県生まれ。大学卒業後、栃木県の中学教諭になり、2023年3月退職。JSPO コーチ2（アルパインクライミング）。全日本スキー連盟指導員。2007年から栃木県山岳・スポーツクライミング連盟指導委員長として雪山、バックカントリースキー、雪崩、読図などの各種講習会で指導している。2014年に那須山岳救助隊隊員になり、2017年3月に発生した那須雪崩事故の救助活動に参加した。雪崩事故防止研究会が主催するAvaSAR講習会に2018年から3年連続で参加し、2021年に受講者たちと「南東北雪崩研究会」を発足させ、搜索救助法の向上に努力している。仲間たちと栃木、南東北、北関東で雪崩講習会を開催している

## 【司会者】

### ○ 佐藤望（さとう のぞむ）宇都宮/担当：司会



1971年、山形県生まれ。RadioBerry（栃木県）のアナウンサー兼プロデューサー。あだ名はビッグイアー（幼いころからトッポジーショに似ていると言われていた）。高校では山岳部に所属。高校総体、国体に出場している。雪国生まれのため、冬は雪が恋しくなる。趣味は登山、音楽、キャンプ、スキー、自転車、車、ゴルフ。座右の銘は「全力に悔いなし」。ラジオを通じ、リスナーと“いつも元気で楽しい友達”になれるよう日々全力を尽くしている。きょうの司会も那須雪崩事故で亡くなった高校生と先生のため、全力を尽くすつもりです。宇都宮市在住。

### ○ 松原竣彦（まつばら たかひこ） 東京/担当：司会



1998年、東京都生まれ。大学2年のとき、青山学院大学山岳部によるネパール東部カンチェンジュンガ・エリア未踏峰のWhiteWave（6960m）遠征に参加する。3年生から主将を務める。2019年11月に雪崩事故防止研究会と協力して、青山学院大学での第1回東京講演会を実現した。2021年に青山学院大学を卒業し、山岳部OBとなった現在は後輩の指導に取り組んでいる。東京都在住。

### ○ 佐藤裕二（さとう ゆうじ） 白馬/担当：司会



1955年北海道生まれ。スキー場運営会社である白馬観光開発(株)に勤務。拇池高原スキー場総支配人を10年間勤め、山岳遭難者救助に協力する。2016年より（一社）白馬村観光局事務局次長に就任し、FreeRide Hakuba 大会開催と同時に白馬村で雪崩講習会開催の企画を担当していた。2024年春、（一社）白馬村観光局を定年退職。白馬村在住。

《第32回講演会》「雪崩から身を守るために」2024

【日時】 2024年10月26日(土) 10:00~18:00  
【会場】 北海道大学高等教育推進機構 大講堂(定員450名)  
【共催】 北海道大学体育会山スキー部・雪崩事故防止研究会  
公益社団法人日本雪氷学会北海道支部

【プログラム】 司会：中川伸也(雪氷災害調査チーム、natures.)

10:00~10:05 開会挨拶 松澤勝 ((公社)日本雪氷学会北海道支部)

10:05~11:05 「雪と雪崩の科学」 (参考図書①)  
勝島隆史(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)

11:05~11:35 「雪崩事故調査報告・研究者の視点から  
~利尻山(1名死亡)・羊蹄山(2名死亡)」  
原田裕介(雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、寒地土木研究所)

11:35~12:00 「防災科研の二セコでの気象観測と情報提供」  
山口悟(雪氷災害調査チーム、国立研究開発法人防災科学技術研究所)

12:00~12:30 《陸上競技場へ移動》

12:30~13:30 「北海道防災航空隊による雪崩事故現場におけるエアレスキュー」  
下田大輔(北海道防災航空隊隊長)  
※悪天候あるいは道防災が出動した場合は訓練を中止し、講演に変更

13:30~14:20 《昼休み》

14:20~15:20 「スキーガイドの行動学  
~雪崩に遭わないために、そして雪崩から仲間を救うために~」  
塚原聡(雪氷災害調査チーム、北海道山岳ガイド協会副理事長、  
(公社)日本山岳ガイド協会、北海道バックカントリーガイド)



15:20~15:40 「雪崩事故調査報告・ガイドの視点から  
~利尻山(1名死亡)・羊蹄山(2名死亡)」  
佐々木大輔(雪氷災害調査チーム、日本山岳ガイド協会理事、  
北海道山岳ガイド協会理事長、国際山岳ガイド)

15:40~16:00 《休憩》

16:00~16:10 「那須雪崩事故の真相~3教諭に実刑判決~」 (参考図書③)  
阿部幹雄(雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム)

- 16:10～16:50 「16歳の<sup>あつき</sup>浮生を雪崩で失って」  
高瀬晶子（那須雪崩事故遺族）
- 16:50～17:50 「雪崩事故の医学～低体温症と凍傷～」  
（参考図書①、④）  
船木上<sup>かづさ</sup>総（雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、苫小牧東病院）
- 17:50～18:00 閉会挨拶  
藤巻大<sup>たいせい</sup>晟（北海道大学体育会山スキー部第112シーズン主任）  
三浦雄一郎<ビデオメッセージ>  
（（株）ミウラ・ドルフィンズ、北海道大学スキー部OB）

開催を協議中 《第1回大山講演会》「雪崩から身を守るために」2024

【日時】2024年11月9日(土) 10:00~18:20

【会場】<未定>

【共催】<未定>・雪崩事故防止研究会

【プログラム】 司会： <未定>

10:00~10:05 開会挨拶 <未定>

10:05~11:05 「雪と雪崩の科学」 (参考図書①)  
尾関俊浩 (雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、北海道教育大学)

11:05~12:05 「降雪と気象&防災科研の大山での気象観測と情報提供」  
山口悟 (雪氷災害調査チーム、国立研究開発法人防災科学技術研究所)

12:05~13:00 《昼休み》

13:00~14:00 「雪崩のリスクマネジメント~行動と装備~」 (参考図書①)  
大西人史 (雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、北海道立総合研究機構)

14:00~15:00 「雪崩の捜索と救助 Avalanche Search & Rescue (AvaSAR)」  
(参考図書①)  
阿部夕香 (雪氷災害調査チーム、北海道山岳ガイド協会理事、Hokkaido 山くらぶ)

15:00~15:15 《休憩》

15:15~15:30 「登山者2名が死亡した大山雪崩事故」  
阿部幹雄 (雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム)

15:30~16:00 「山岳ガイドの行動学~大山で雪崩に遭わないために~」  
笹倉孝昭 (日本山岳ガイド協会理事、国立登山研修所講師)

16:00~17:00 「雪崩事故の医学~低体温症と凍傷」 (参考図書①、④)  
船木上<sup>かづさ</sup>総 (雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、苫小牧東病院)

17:00~17:15 《休憩》

17:15~18:15 <仮>「スキーガイドの行動学」  
佐々木大輔 (雪氷災害調査チーム、日本山岳ガイド協会理事、  
北海道山岳ガイド協会理事長、国際山岳ガイド)

18:15~18:20 閉会挨拶  
1) 阿部幹雄 (雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム)  
2) <未定>

《第7回栃木講演会》「雪崩から身を守るために」2024

【日 時】2024年11月30日(土) 10:00~18:00  
【会 場】宇都宮大学峰ヶ丘講堂(定員180名)  
【共 催】宇都宮大学農学部応用生命化学科生物有機化学研究室  
南東北雪崩研究会、雪崩事故防止研究会



【プログラム】 司会：佐藤望(エフエム栃木)

- 10:00~10:05 開会挨拶 増淵篤史  
(那須山岳救助隊、南東北雪崩研究会)
- 10:05~11:05 「雪と雪崩の科学」 (参考図書①)  
勝島隆史(国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所)
- 11:05~12:05 「スキーガイドの行動学  
~雪崩に遭わないために、そして雪崩から仲間を救うために~」  
塚原聡(雪氷災害調査チーム、日本山岳ガイド協会、  
北海道バックカントリーガイド)
- 12:05~12:50 《昼休み》
- 12:50~13:50 「雪崩の搜索と救助(サーチ&レスキュー AvaSAR)」  
(参考図書①)  
中川伸也(雪氷災害調査チーム、日本山岳ガイド協会、natures.)
- 13:50~14:50 「栃木のエアレスキューについて~講演と実演~」  
栃木県消防防災航空隊 石原陽一
- 14:50~15:10 【休憩】
- 15:10~16:10 「梅里雪山<sup>めりーしゅえん</sup> 十七人の仲間を探して」  
小林尚礼<sup>なおゆき</sup>(カワカブ会、京都大学学士山岳会、写真家)
- 16:10~16:20 【休憩】

《特集 那須雪崩事故》

- 16:20~16:35 「那須雪崩事故の真相~3 被告に実刑判決」 (参考図書③)  
阿部幹雄(雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム)
- 16:35~17:05 <仮題>「私の夢は生徒と顧問だった先生といっしょに山に登ること」  
浅井道子(那須雪崩事故遺族)
- 17:05~17:35 <仮題>「那須雪崩事故の教訓~山岳部の新しい山の登り方」  
高梨和幸(大田原高等学校山岳部顧問)

17:35～17:50 「新たな栃木県の高校安全登山の取り組み」  
植木孝（南東北雪崩研究会、那須山岳救助隊）

17:50～18:00 閉会挨拶 飯郷雅之（宇都宮大学教授）  
阿部幹雄（雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム）

オンライン併用

《第6回東京講演会》「雪崩から身を守るために」2024

【日時】2024年12月1日（日） 10:00～18:00

【会場】青山学院大学（予定）本多記念国際会議場（定員562名）

【共催】青山学院大学山岳部・雪崩事故防止研究会

【プログラム】 司会：松原<sup>たかひこ</sup>竣彦（青山学院大学山岳部OB）

10:00～10:05 開会挨拶 松浦和史（青山学院大学山岳部主将）

10:05～11:15 「雪と雪崩の科学」（参考図書①）  
「防災科研の山岳地帯における気象観測と情報提供」  
中村一樹（雪氷災害調査チーム、国立研究開発法人防災科学技術研究所）  
山口悟（雪氷災害調査チーム、国立研究開発法人防災科学技術研究所）

11:15～11:25 「雪崩事故調査報告・研究者の視点から  
～利尻山（1名死亡）・羊蹄山（2名死亡）」  
原田裕介（雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、寒地土木研究所）

11:25～11:55 「山岳ガイドの行動学～雪崩に遭わないために～」  
笹倉孝昭（日本山岳ガイド協会理事、国立登山研修所講師）

11:55～12:45 《昼休み》

12:45～13:45 「雪崩のリスクマネジメント～行動と装備～」（参考図書①）  
大西人史（雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、北海道立総合研究機構）

13:45～14:45 「雪崩事故の医学～低体温症と凍傷」（参考図書①、④）  
船木<sup>かづさ</sup>上総（雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、苫小牧東病院）

14:45～15:00 《休憩》

15:00～16:00 「雪崩の捜索と救助 Avalanche Search & Rescu (AvaSAR)」  
（参考図書①）  
中川伸也（雪氷災害調査チーム、日本山岳ガイド協会、natuers.）

16:00～17:00 「スキーガイドの行動学  
～雪崩に遭わないために、そして雪崩から仲間を救うために～」  
塚原聡（雪氷災害調査チーム、日本山岳ガイド協会、  
北海道バックカントリーガイド）

17:00～17:10 《休憩》

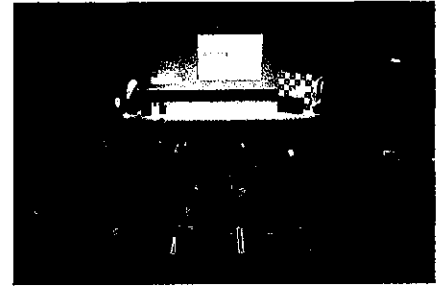
17:10～17:25 「那須雪崩事故の真相～3 教諭に実刑判決～」 (参考図書③)  
阿部幹雄 (雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム)

17:25～17:55 「16 歳の<sup>あつき</sup>淳生を雪崩で失って」  
高瀬晶子 (那須雪崩事故遺族)

17:55～18:00 閉会挨拶 阿部幹雄 (雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム)

《第5回白馬講演会》「雪崩から身を守るために」2024

【日 時】2024年12月9日(月) 14:00~21:00  
【会 場】白馬村ウイング21 (定員500名)  
【共 催】白馬村・小谷村・一般社団法人白馬村観光局  
一般社団法人小谷村観光連盟・雪崩事故防止研究会



【プログラム】 司会：佐藤裕二

- 14:00~14:05 開会挨拶 中村義明 (小谷村村長)
- 14:05~15:05 「雪と雪崩の科学」 (参考図書①)  
尾関俊浩 (雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、北海道教育大学)
- 15:05~16:05 「雪崩の捜索と救助 Avalanche Search & Rescue (AvaSAR)」  
中川伸也 (雪氷災害調査チーム、日本山岳ガイド協会、natuers.)  
(参考図書①)
- 16:05~16:15 《休憩》
- 16:15~17:15 「降雪と気象」 (参考図書①)  
中村一樹 (雪氷災害調査チーム、国立研究開発法人防災科学技術研究所)
- 17:15~17:35 「防災科研の白馬での気象観測と情報提供」  
山口悟 (雪氷災害調査チーム、国立研究開発法人防災科学技術研究所)
- 17:35~17:45 《休憩》
- 17:45~18:45 「スキーガイドの行動学  
~ガイド業25年とフリーライド白馬大会の安全管理~」  
舎川朋弘 (白馬山案内人組合、日本山岳ガイド協会、カラススポーツクラブ)
- 18:45~19:45 「雪崩事故の医学~低体温症と凍傷~」 (参考図書①、④)  
船木上総 (雪崩事故防止研究会、雪氷災害調査チーム、苫小牧東病院)
- 19:45~19:55 《休憩》
- 19:55~20:55 <交渉中> プロスノーボーダー
- 20:55~21:00 閉会挨拶 丸山俊郎 (白馬村村長)  
阿部幹雄 (雪崩事故防止研究会代表)